

# 1 . 調査研究の背景と目的

## (1)背景

都心から30キロ圏内にある本市は、東京のベッドタウンとして発展してきました。近年、少子高齢化の加速や生産年齢人口の減少が進んでいることから、若い世代の定住化や、手賀沼などの資源をいかした観光の振興などによる交流人口の拡大、地域コミュニティの活性化など、さまざまな取り組みを進めているところです。

平成19年3月に耐震性の問題から1,000席のホールを有する我孫子市民会館を閉鎖することとなり、市ではこれまでに新たな文化施設の整備に向けて2つの委員会と1つの研究会を立ち上げ、その中でさまざまな検討を行ってきました。

市民会館跡地利用検討委員会では、建設候補地として市内3つのエリアを選定し、文化施設検討委員会では、1,000人収容のホールや駐車場など施設の規模について検討したのを受け、文化施設建設研究会で、建設候補地の評価や建設費用の概算、PFI事業などの整備手法の検討を行いました。

平成23年3月には東日本大震災が発生しました。我孫子市も被災地となり、定住人口の減少が加速しました。発災により、改めて日常生活における心の豊かさや、人々の絆と地域社会でのつながり、地域の共通の記憶となる文化資源やまち独自の個性などが見直されています。

これまでの検討は、いずれも旧市民会館の機能を踏襲した施設の整備を前提に、文化・芸術分野に限定されたものでしたが、さまざまな交流やにぎわいを育み、地域の活性化をもたらす新たな文化交流拠点としての機能を持った施設の整備が必要となってきました。

## (2)目的

市では、「文化芸術の振興」に加え、さまざまな「交流」や「にぎわい」を創出する、新たな文化交流拠点施設の整備について、調査研究を行うこととしました。

この調査研究では、施設整備の基本方針や導入機能、建設候補地の検討・評価を中心に、整備・運営方針や概算整備費などについて検討を行ったものです。

新たな施設の整備には、多額の財政負担が伴うため、市では今後、整備の是非を含めて、市民と連携・協力しながら検討を進めていくこととしています。

この調査研究報告書は、その際の基礎資料として利用することを目的に、市民ニーズに加え、文化芸術の振興、類似施設の建設、にぎわいづくりなどに携わっている専門家の意見などを踏まえて調査研究を行い、その結果をまとめたものです。